

## 2023年度 学士入学試験 転部試験 科目等履修生選考 問題

## 早稲田大学政治経済学部

経済学

次の問題1・2に答えよ。解答はそれぞれの問題の所定の解答用紙に記入せよ。

問題1. 以下の(1)～(5)のすべてに答えなさい。

- (1) ある企業の短期生産関数が、財の生産量を $x$ 、生産要素の投入量を $l$ として、 $x = 6\sqrt{l}$ であるとする。財の価格を $p$ 、生産要素の価格を $w$ 、固定費用を100として、この企業の短期費用関数を求めなさい。(ただし、この財の市場は完全競争であるとする。)
- (2) (1)の設定で、(1)で求めた短期費用関数を持つ企業の個別供給関数を答えよ。
- (3) (1)の設定で、(1)と同じ財を生産する別の企業の短期費用関数が、財の生産量を $x$ として、 $C(x) = x^3 - 4x^2 + 8x$ であるとする。この企業の個別供給関数を答えよ。
- (4) (1)の設定(ただし、完全競争市場ではない)、この財の市場需要関数が、需要量を $x^d$ 、価格を $p$ として、 $x^d = 200 - p$ であるとする。生産要素価格が与えられた結果として、 $C(x) = 3x^2 + 100$ という短期費用関数を持つ企業があり、その企業が独占企業であるとして、独占均衡におけるこの財の価格と取引量を答えなさい。
- (5) この財の市場需要関数が、需要量を $x^d$ 、価格を $p$ として、 $x^d = 200 - p$ であるとする。 $C(x) = 20x + 100$ という短期費用関数を持つ企業が2社あり、その場合のクールノー・ナッシュ均衡における財の価格を求めなさい。

問題2. 以下の設問1～5のすべてに答えなさい。

1. 貨幣の3つの機能を書きなさい。
2. 現金・預金比率が0.1、準備率が0.01のときの貨幣乗数を求めなさい。
3. 労働市場に焦点を当ててケインズ経済学と新古典派経済学の違いを述べなさい。
4. 投資乗数について考える。
  - (1)  $Y$ 、 $C(Y)$ 、 $I$  を各々実質国民所得、消費関数、投資需要として財市場の均衡条件が  $Y = C(Y) + I$  であるとき、投資乗数が1より大きくなる経済学的理由を述べなさい。
  - (2) (1)における投資乗数が5であるときの限界貯蓄性向を求めなさい。
5. ソローの新古典派成長モデルについて考える。
  - (1)  $Y$ 、 $N$ 、 $K$  を各々産出量、労働者数、資本ストックとして、同モデルで用いられる生産関数の具体例を1つ書きなさい。
  - (2) 同モデルの経済が最終的に到達する状態(定常状態)において労働者1人当たりの資本ストックが一定であるとする。このとき(1)で作った生産関数に基づくと労働者1人当たりの産出量はどのように変化するかを理由とともに述べなさい。







